

第12回 豊川流域圏自然再生検討会

第11回 検討会における主な意見と対応

重要種に係わる情報等については、原則非公開とさせていただきます

令和元年10月3日

国土交通省 中部地方整備局 豊橋河川事務所

第11回 検討会における主な意見と対応

項目	主な意見		本年度の対応状況
下流部再生 (ヨシ原再生) について		・ 元々ヨシ原がなかった放水路と、ヨシ原があった本川では、再生したヨシ原の性格が異なるため、評価は分けて行うこと。 ・ 鳥類の種数・個体数については、増加傾向が明瞭にみられないので、今後もモニタリングを継続して傾向を把握すること。	・ 本年度の調査結果を踏まえ、本川と放水路のヨシ原面積変化を分けて整理する（次回報告予定）。 ・ モニタリングを継続し、鳥類の種類数、個体数の傾向を把握する（次回報告予定）。
河口部再生 (干潟再生) について		・ 自然干潟よりも施工干潟でハマグリが多いことについて、近年の三河湾全体の変化を考慮して、考察する必要がある。 ・ 魚類調査結果について、種類別に減少傾向を整理し、考察すること。 ・ 今後の魚類調査については、小型定置網や碎波帯ネットでは十分に把握できない甲殻類も対象として、モニタリング手法を検討すること。	・ これまでの調査結果を踏まえ、ハマグリ の個体数の変化傾向について考察した（資料-2）。 ・ 魚類の出現傾向を、種類別に整理、考察した（資料-2）。 ・ 本年度、試行として水流噴射式ネットを用いて甲殻類を採集した（結果は次回報告予定）。
		・ 生物多様性の観点から、干潟生態系構成種である甲殻類の評価は重要であるため、モニタリングを行うと良い。	・ 本年度も継続して行っている底生動物調査において、甲殻類の出現状況に留意してとりまとめる。

第11回 検討会における主な意見と対応

項目	主な意見		本年度の対応状況
河口部再生 (干潟再生) について	■■■■■	・ 干潟の掘削箇所の土砂を造成に用いるにあたって、貝類の生息にとって良好な粒径となっているか、事前調査で確認すること。	・ 本年度、掘削箇所と造成箇所の粒度組成を確認した（資料-2）。
	■■■■■ ■■■■■	・ 三河湾の貧酸素水塊という広域データと、河口部の溶存酸素のデータの関連性をみるために、水質の連続観測が必要である。	・ 大規模な調査になるので、検討中。
アサリ着底稚貝調査	■■■■■	・ 次年度調査では、潮汐周期と上流域からの稚貝の移動に着目して調査頻度・地点を検討することが必要である。	・ 三河港湾事務所と連携して、河道部から河口部、海域への稚貝の移動に着目した調査計画を検討した（資料-3）。
総括	■■■■■	・ 10年近くモニタリングを継続してきて興味深い事象をとらえることができている。今後はモニタリングの目的を見直し、焦点を絞ったモニタリングに移行してもよいと思われる。	・ 検討会でご意見を頂きながら対応していく。